

ユニセフ 年次報告 2011



表紙写真

© UNICEF/NYHQ2011-1245/Riccardo Gangale

朝日でシルエットが映しだされた女性と2人の子ども。ソマリアから逃れてきた人々のための、ダダーブ、イフォ難民キャンプに着いたばかりで、救援を受けるための登録を待っている（ケニア北東州、ソマリアとの国境付近にて）

印刷後、誤りが見つかった場合は、当サイト <www.unicef.org/publications> までアクセスしてください。

本書に掲載されている情報の出典について：本報告書のデータは、ユニセフ（国連児童基金）、各国連機関、ユニセフの各国事務所が提出している年次報告書、ならびに 2012 年6月に執行理事会に提出されたユニセフ事務局長年次報告書の最新データに基づくものです。

本書に掲載されている資金（表記）について：断り書きがない限り、金額はすべて米国ドル表示です。

目次

はじめに	2
第1章 子どもたちのために成果を出す	4
第2章 すべての子どもの可能性を存分に広げる	10
第3章 危機にあっても決して揺らがない	18
第4章 子どもの権利を擁護する	22
第5章 「公平性 (equity)」を求めて効率的に運営する	26

はじめに

2011年の出来事を振り返り、最も困難な状況にある、最も脆弱な（影響をこうむりやすい）子どもたちへ支援を届けるという取り組みの拡大が、どれだけ重要であったかが、明確になりました。そして非常に重要なことは、子どもたちがどこにいようとも持てる力を存分に発揮できるよう支援するためには、すべてにおいて新しい切り口が決定的な役割を持ちうることであり、またそうした取り組みを私たちはなすべきであるということも、はっきりしたのです。

この『ユニセフ年次報告2011（UNICEF Annual Report 2011）』に書かれているように、気候関連の災害や人道的な緊急事態、厳しい紛争、経済混乱などが起これば必ず、子どもたち、特に最も貧しい子どもたちが犠牲になってきました。日本の地震と津波、パキスタンの深刻な洪水、そしてアフリカの角の干ばつと飢饉まで、最悪の困難を和らげ、コミュニティの再建を手伝い、将来への回復力を強められるよう、国連児童基金（UNICEF：ユニセフ）はパートナーと共に対応してきました。

より広くとらえるならば、2011年、ユニセフは自らの課題とした「公平性（equity）」を非常に深く掘り下げ実践しました。これは、地理的に、あるいは社会的に最も取り残された、支援を誰よりも必要としている子どもたちの権利を最優先しなければならない、という原則に基づいています。それが正しいという理由だけでそうするものではありません。調査と経験から、それが子どもたちにとってより良い成果を出しながら、最も実践的であり、最も費用対効果が高いことが明らかになったからです。

本報告書は、「公平性（equity）」の原則をいかにして実践に移していくか、ということに焦点が当てられています。ユニセフ現地事務所のグローバルなネットワークは、命を救うための支援と物資を、最も貧しく、遠く離れたコミュニティにも届けられるような革新的な方法で働いています。ユニセフが国レベルで支援しているのは、定期的な予防接種の増加、教育の質の向上、就学率の増加、HIVの母子感染を防ぐための対策を含む基本的な保健医療サービスの拡大、といった各国政府の取り組みです。あらゆるレベルにおいて、子どもたちの生命を守り、育てていく政策や実践を提言するのがユニセフです。

ユニセフという組織全体を通じて私たちは、貴重な財源をより効率的に使い、私たちを信頼して資金を託してくれた人々への確に説明ができるように、と常に努めています。これは、財政的に困難な状態が続いている今日、特に重要なことです。2011年の予算の見直しにおいて、プログラムには一切手をつけず、本部の管理コストを削減することにより、大いなる節約ができたことを非常に喜ばしく感じています。なぜなら、子どもたちによりすばらしい結果をもたらすには、現場のスタッフの存在が鍵であり、現場が必要とする財源の確保には責任があるからです。

ユニセフは2011年、一層の効率を上げるために更なるステップを踏み出しました。ユニセフ全体で、「公平性を目指す成果モニタリング・システム（Monitoring of Results for Equity System）」を新たに導入したのです。これは、プログラムの成果に対するプログラム支出を監視し管理するためのものです。成果は、モニタリング（監視）していくほど、うまく管理できるようになります。子どもたちの権利を実現するのであれば、大事なものは成果だけです。

**ユニセフは2011年、
自らの課題である
「公平性(equity)」を非常に深く
掘り下げて実践しました。**



こうしたステップのおかげで、ユニセフはどこで働こうとも、最も脆弱な（影響をこうむりやすい）子どもたちのために尽くすことができるのです。私たちは今後も不公平性に着目しつづけ、これまで以上に革新的で敏速な、責任を果たせる組織となるよう努力を続けていきます。そして子どもたち、家族、コミュニティに、彼ら自身の未来を築くために必要なツールを届けたいと常に願っています。その未来は、彼らのものなのです。

ユニセフ事務局長
アンソニー・レーク

© UNICEF/NYHQ2011-1809/Caffe
ユニセフ事務局長アンソニー・レークにHIV/エイズへの認識と予防について話す、ブルーナ、17歳。ブルーナは「都市密集地区のためのプラットフォーム」の活動に参加。この運動は、青少年や若者に対して、コミュニティの問題を調べ、解決策を提案するように働きかけている（ブラジル）